

# ふくしま市6次産業化推進戦略

(令和3年度～令和7年度)

令和3年6月  
福島市

# ふくしま市6次産業化推進戦略

## 目次

第1章	ふくしま市6次産業化推進戦略策定にあたって	
1	戦略策定の趣旨	1
2	6次化の定義	1
3	戦略の位置づけ	1
4	計画期間	1
第2章	6次化をめぐる情勢	
1	国内の6次化推進の取組み	2
2	福島県の6次化推進の取組み	2
3	本市の6次化推進の取組み	2
(1)	本市農業の現状(第1次産業)	2
(2)	本市工業の現状(第2次産業)	4
(3)	本市商業・サービス業の現状(第3次産業)	4
(4)	本市観光の現状(第3次産業)	5
(5)	本市のこれまでの6次化の取組み	5
第3章	6次化推進に向けた課題	
1	商品・サービス開発の支援	8
2	販路確保	8
3	人材育成	8
4	推進体制	8
第4章	6次化推進のための戦略	
1	テーマ	10
2	基本方針	10
3	体系図	10
4	重点事業	11
5	施策・事業	
(1)	商品・サービス開発の支援	12
(2)	販路確保の支援	13
(3)	人材育成の支援	14
(4)	推進体制の拡充	15
6	主な事業の年次計画	17
	別表	18

# 第1章 ふくしま市6次産業化推進戦略策定にあたって

## 1 戦略策定の趣旨

ふくしま市6次産業化推進戦略（以下、「戦略」という。）は、地域産業を活性化させるため6次化に意欲のある農業者・市民あるいは団体・企業の発掘や、各々が抱える課題の把握に努めるとともに、製造・流通・サービス業など農業以外の分野との連携を図りながら、6次化の実践者となりうる人材の育成、消費者ニーズを捉えた商品の開発、市内外での販売促進や流通事業者への販路開拓につなげ、市・関係機関が一体となって本市農産物の魅力創出とブランド化を推進するための方策を示すものです。

## 2 6次化の定義

本戦略において6次化とは、次の2つの形態とします。

### （1）農業者が主体となる取り組み

農業者（第1次産業）が農産物の生産だけでなく、製造・加工（第2次産業）、流通・販売・サービス（第3次産業）まで経営を多角化することで、農業所得を向上する取り組み。

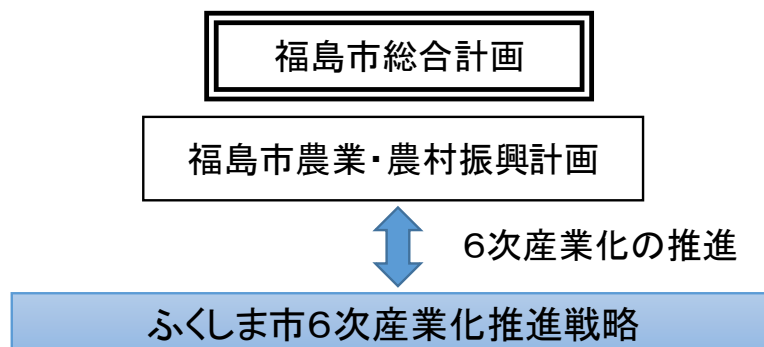
### （2）農業者と他産業者が連携した取り組み

効率的に農産物へ価値を付加し、農業所得を向上させるために、農業者と他産業者が対等な価格取引のもと、お互いの強みを活かして連携する取り組み。

## 3 戦略の位置づけ

本戦略は、福島市農業・農村振興計画の個別計画として位置づけるものであり、今後の6次化の取り組みの基本となるものです。

また、実施にあたっては、関連する国、県の各種法令や指針との整合性を図るとともに、「福島市総合計画」との連携を図るものです。



## 4 計画期間

この戦略の計画期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

## 第2章 6次化をめぐる情勢

### 1 国内の6次化推進の取組み

国は、6次産業化の推進に向けて、農林漁業者と多様な事業者が連携して新商品開発や販路開拓等へ取り組むことや、加工・販売施設等の整備及び新たな高付加価値商品等の創出・事業化に必要な技術実証、マーケティング等を支援するとしています。「成長戦略」（令和2年）では、農林漁業者が異業種と協働で取り組む一次加工等の促進を図るとともに、各都道府県において関連事業者間のマッチング等を行う体制を令和4年度までに整備することや、農林水産物・食品の輸出額を令和12年までに5兆円に増加させる目標を掲げています。

そのほか、機能性表示食品制度の開始や令和2年4月に完全施行された新たな食品表示制度など、消費者の健康志向や食の安全への対応が一層重要になってきています。

### 2 福島県の6次化推進の取組み

県は、令和2年度から5年間の6次化の指針として「第3期 ふくしま地域産業6次化戦略 ～ふくしまの元気を創る地域産業6次化を目指して～」を策定しました。

同戦略では、「福島県の豊かな農林水産資源を基盤とし、人・技術、資源、伝統・文化を活用して、活気を生み出す取り組みを地域ぐるみで活性化することにより、元気あふれる「ふくしま（地域）」づくりを目指す。」を基本コンセプトに、推進方策に取り組むとしています。

### 3 本市の6次化推進の取組み

#### （1）本市農業の現状（第1次産業）

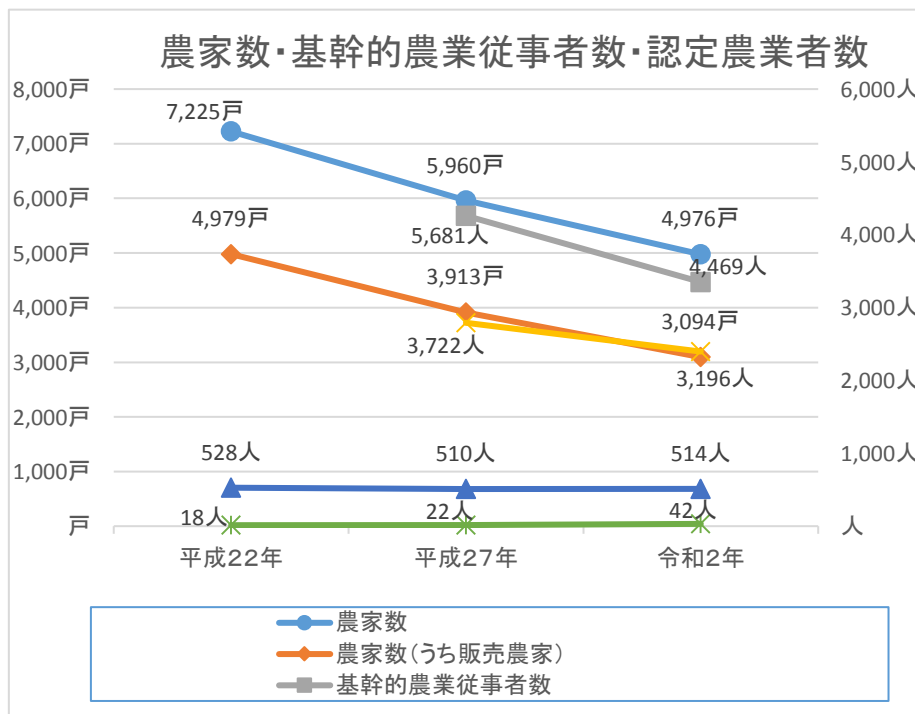
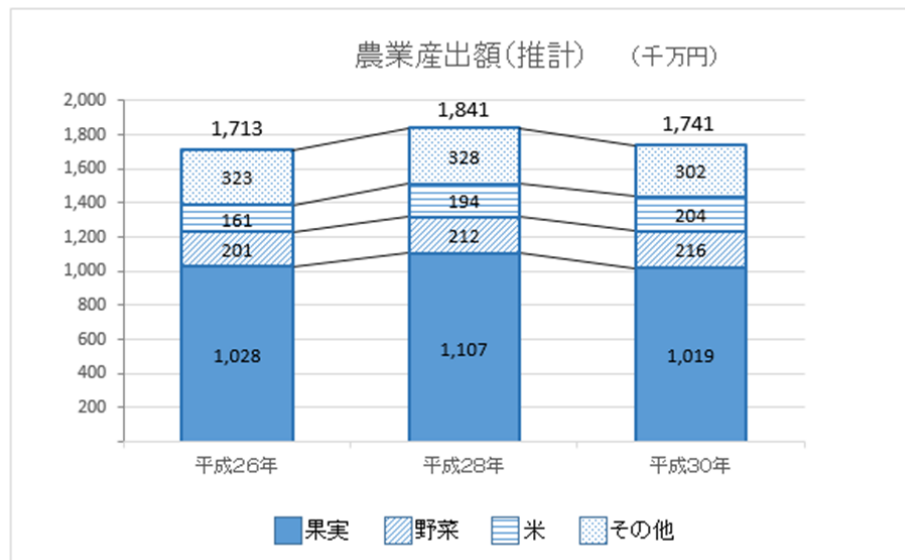
本市は福島県の中通り北部に位置し、西の吾妻連峰、東の阿武隈高地に囲まれた盆地の中に開けた都市です。「水質が最も良好な河川」に選ばれた荒川や市街地の南北には阿武隈川が流れており、盆地特有の気候と風土を生かした農業が盛んです。中でも真夏のモモ、秋のナシやブドウなどの温暖な気候でできるくだものと、初夏のサクランボ、初冬の蜜が入ったリンゴなどの寒冷的な気候でできるくだものの両方が生産される「くだもの宝石箱 福島市」です。

特にモモ・ナシ・リンゴは種類の豊富さと生産量において全国トップクラスで味と品質においても高い評価を得ています。

また、東北を代表する飯坂温泉・土湯温泉・高湯温泉の多種多様な効果をもつ温泉地を有し、「福島に桃源郷あり」と称される花見山をはじめ、郊外に広がる果樹園の花々などの花の名所や、観光農園でくだもの狩りが体験できるほか、いかにんじんや円盤餃子などの名物で知られます。加えて平成30年8月には「福島フルーツ盆地酒（ぽんちしゅ）特区」として認定され、法律上の基準より少量でも酒類製造免許が取得できるようになり、本市のくだもの等を活用した酒類の製造が可能となったことから、制度を活用した民間での取り組みが進められています。これら、特色ある産品創出を促進し、地域活性化につなげるなど本市の農業と観光との結びつきは重要な産業基盤となっています。

平成31年4月には、国立大学法人福島大学に「農学群食農学類」が開設されました。本市は、「福島大学農学群食農学類との連携協力に関する基本協定」を締結して開設を支援し、開設後は地域社会の発展及び農業をはじめとする産業振興に連携して取り組んでいます。

現在、東北中央自動車道の福島大笹生IC周辺には令和4年春オープン予定の「(仮)道の駅ふくしま」の整備や「福島おおぞらインター工業団地」への企業の立地が進んでおり、福島市の重要な拠点となりつつあります。



(注) 基幹的農業従事者数は平成27年以降の記載となります

・資料：農林水産省（推計）（平成30年分を令和2年3月公表）

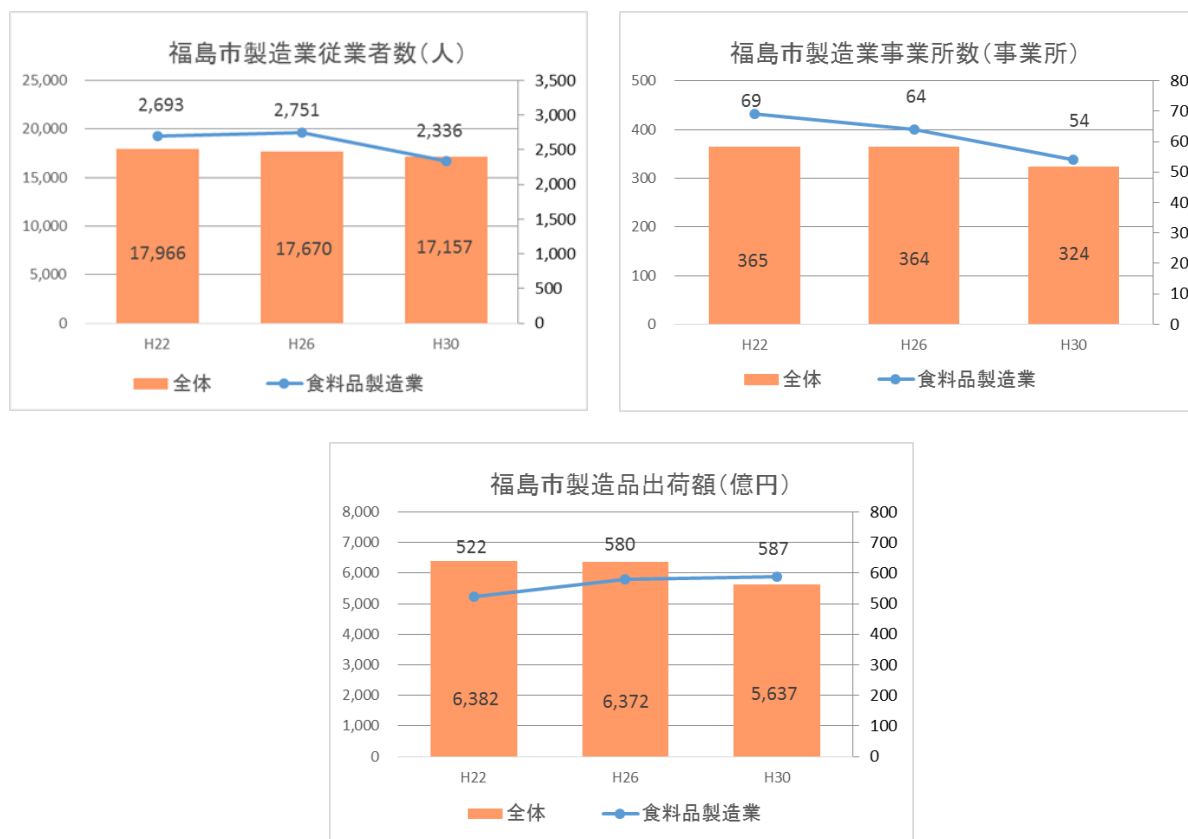
世界農林業センサス、農林業センサス、2020農林業経営体調査結果概要（概数値）から抜粋

## (2) 本市工業の現状（第2次産業）

本市の工業は、平成30年における概況は、従業者4人以上の事業所数324事業所、製造品出荷額等が約5,637億円となっています。このうち、食料品製造業が54事業所でもっとも多く、全体の16.7%を占めています。

また、製造業全体では事業所数、従業者数、製造品出荷額がともに震災前の平成22年に比べ減少しているなか、食料品製造業については、事業所及び従業者数は減少していますが、製造品出荷額は約65億円増加しています。

さらに、(公益財団法人)流通経済研究所による全国の消費者へのアンケート調査から、約31%がコロナ問題後、料理する頻度が増えたと回答しており、家庭での食事が増えていることから、日持ちする商品や、簡単に調理できる商品が好まれていると推測されます。



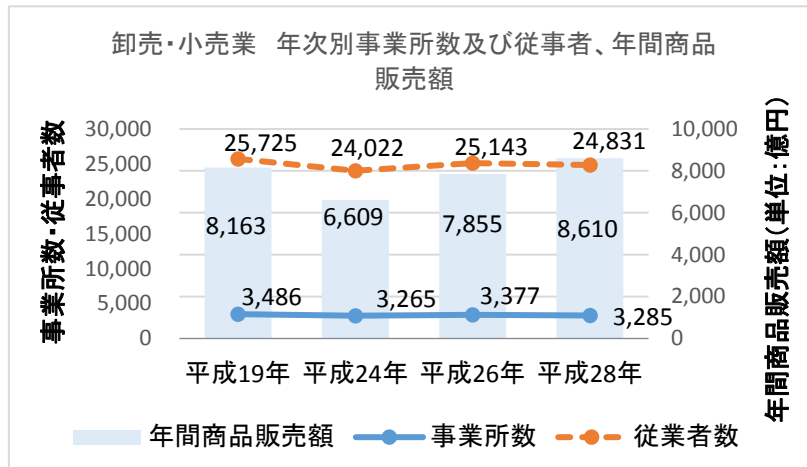
・資料：福島県企画調整部統計調査編 平成22・26・30工業統計調査結果報告書から抜粋

## (3) 本市商業・サービス業の現状（第3次産業）

本市の商業は、ICT活用などの対応の遅れ、商店街での高齢化や後継者不足、また、大型小売店の郊外への出店や都市間競争の激化などにより、中心市街地や地域の身近な商店街の衰退など厳しい商業環境が続いています。

本市の宿泊業・飲食サービス業の事業所数については、震災前の平成21年の1,737事業所から平成28年の1,678事業所へ59事業所減少しております。また、卸売・小売業の事業所総数は、3,285事業所、年間商品販売額は約8,610億円となっており、事業所数の減少に対し年間商品販売額は、平成19年の水準まで回復しています。

さらに、地元農産物や加工品が販売される農産物直売所については、令和3年3月現在は11か所あるほか、近年では量販店の一角に6次化商品を取り扱うコーナーが設置されるなど、小売店側も6次化商品を応援する動きが見られます。【P18：別表1】



・資料：福島市の商業（平成26年商業統計調査結果報告書、平成28年経済センサス-活動調査〔卸売業、小売業〕結果報告書）より

#### （4）本市観光の現状（第3次産業）

令和元年における本市の観光客入込数は、約602.2万人でした。平成22年からの観光客入込数の推移をみると、平成22年の約661.7万人をピークに、翌年の平成23年は、東日本大震災の影響により約547.4万人まで激減しました。平成24年には全国的な被災地支援の気運による来訪者の増加で約627.2万人まで戻り、平成29年に約655.3万人まで回復しましたが、平成30年には再び減少に転じ、依然として震災前の水準までは回復していません。【P18：別表2】

特に、くだもの狩りなどの体験ができる観光果樹園の入込数も同様で、平成22年の約13.2万人をピークに震災により約3万人まで激減、近年回復はしてきていますが、震災後10年を経過している現時点でも平成22年の入込数には程遠い状況です。

さらに、福島市観光農園協会の会員数は震災前の平成22年の49軒から令和2年は39軒と10軒の減少となっています。

#### （5）本市のこれまでの6次化の取り組み

平成30年2月にふくしま市6次産業化推進戦略を策定し、意欲ある担い手が6次化を牽引し、地域ぐるみで地域産業を創出する幅広い取り組みとなる6次化を推進します、との基本方針のもと、推進体制構築、人材育成の支援、商品開発の支援、販路確保の支援に取り組んでいます。【P19：別表3】

##### ①推進体制の構築

○「ふくしま市6次産業化推進協議会」を推進組織として農業者・農業団体、商工団体、金融機関、製造・加工業者、流通・販売業者、学識経験者、行政機関などのネットワークの構築に努めています。

（開催回数 平成30年度＝2回 令和元年度＝1回 令和2年度＝2回）

○6次化相談員を配置し、6次化の取り組みに意欲ある農業者等を発掘し、各々が抱える課題の解決を図りながら、商品開発から販路拡大まで継続定期的な支援に努めています。

相談種別	相談件数	情報	支援	マッチング	業種別															
					農業者				商工業				行政・支援機関				他(NPO、一社、学校)			
					小計	情報	支援	マッチ	小計	情報	支援	マッチ	小計	情報	支援	マッチ	小計	情報	支援	マッチ
平成30年度	183	123	45	15	112	80	25	7	46	26	12	8	6	6	0	0	19	11	8	0
令和元年度	141	77	53	11	90	47	36	7	19	13	4	2	9	9	0	0	23	8	13	2
令和2年度	195	141	46	8	94	65	27	2	38	28	9	1	34	34	0	0	29	14	10	5

○6次化実態調査を平成30年度に実施し、6次化に意欲ある人材や加工業者等の情報や各々が抱える課題等を収集し、施策事業の企画立案や6次化相談員の活動拡充につなげています。

(調査概要) 期間：平成30年6月25日～10月11日

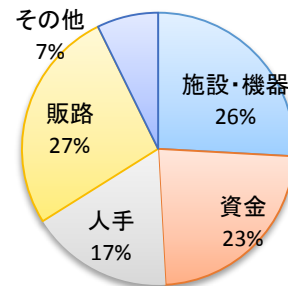
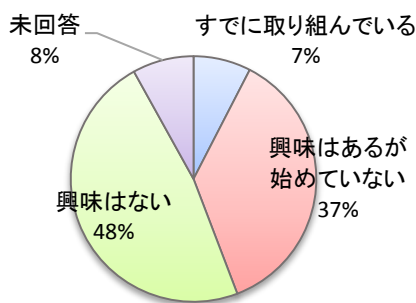
対象：認定農業者、農業団体会員等

送付者 2,521名 回答者 1,215名 回答率 48.2%

(主な調査結果)

「6次化に興味関心がある農家の割合」

「6次化に取り組むための主な課題」



## ②人材育成の支援

○6次化アドバイザーを設置し、6次化に関する知識習得のための研修会等を開催しています。

(開催回数 平成30年度＝1回 令和元年度＝0回 令和2年度＝2回)

○地域懇談会等(学習会、交流会等)を開催し、6次化に取り組む農業者などを中心とした農業者同士、他産業者とのネットワークの形成に努めています。(※1)

(開催回数 平成30年度＝3回 令和元年度＝6回 令和2年度＝4回)





### ③商品開発の支援

○加工施設情報を収集し、農業者等へ発信しています。

○各種補助制度等の情報を収集し、6次化相談員からの情報提供及び平成30年度実態調査で把握した情報提供希望者や相談者等へ情報を発信しています。

○四季の里農産加工館産品開発室の活用促進を図っています。(利用数 平成30年度=143件 令和元年度=148件 令和2年度=155件)

○商品化を検討している試作品への意見の要望があった際に、職員によるマーケティング調査を実施しています。

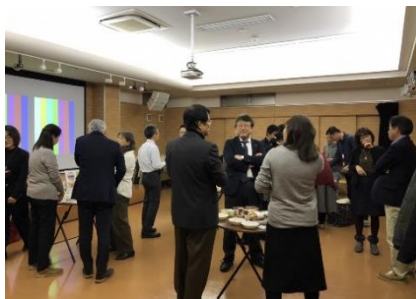
○地域懇談会(交流会等)において、くだものの一次加工や商品分析、実習などの商品開発のための支援を行っています。(②人材育成の支援に含まれる)

### ④販路確保の支援

○市内外での観光イベント等への出店の機会を提供し、6次化商品の販売やPR活動を支援しています。



○地域商談会(交流会等)を開催し、6次化に取り組む農業者と他産業者とが交流する機会を提供しています。(②人材育成の支援に含まれる)



○新たに開発された商品情報を収集し、市ホームページの「わくろく発信プロジェクト」にて市内外へ情報を発信しています。(令和3年2月現在掲載数=53件)

## 第3章 6次化推進に向けた課題

### 1 商品・サービス開発

6次化商品は、開発・製造しても販路を確保できなければ、在庫を抱える大きなリスクを伴います。商品・サービス開発にあたっては、消費者ニーズの把握や、販売戦略等のマーケティングに基づき「売りたい」ではなく「消費者が本当に求めるものを作り提供する」という視点での本市の強みを生かせるような商品開発が必要です。

また、商品・サービス開発の拠点となる食品加工施設については既存施設の整備の充実を図る一方、農業者だけの6次化への取り組みに限界もあることから、原料供給者として加工業者を含む他業種との連携による取り組み機会の創出も必要です。

さらに、資金の確保が課題の農業者や事業者もいます。市や県・国などの事業や補助制度の活用により、6次化商品の生産及び販売促進を図るための情報発信の充実も必要です。

### 2 販路確保

6次化の取り組みによる農業所得の向上や関連産業を振興させるためには、安定した販路の確保が必要です。

製造ロット数や商品の提供時期の制約、原材料の確保が確約できないことなど、生産者側の理由から、販路開拓が図られない状況にあります。

また、市内外での販路開拓にあたり、イベント出展やマッチング会への参加等が考えられますが、その負担も課題となっています。

これらのことから、地元での販売スペースの確保やインターネット販売、イベントでの委託販売等による販路開拓など様々な形態への支援が必要です。

さらに、新型コロナウイルス感染症等による新しい生活様式により、これまで実施していた試食や対面販売が困難になり、新たな手法の取り組みが求められています。

### 3 人材育成

本市においては、農業者による6次化の取り組み実績は決して多いとは言えませんが、毎年少しずつ新たに取り組む農業者が確認されている状況にあります。農業者が新たな事業として取り組むためには、6次化に取り組むことが農業経営に有益であるという情報発信が求められています。6次化における先進事例や課題等を知り、農業者が農業経営の一つの手段であることを理解するなど、6次化に取り組む意識を付けながら、農業経営者を育成していくことが必要です。

また同様に、農業者以外の他産業者においても、6次化の取り組みが新たに展開する事業として有益であるという情報発信が必要です。

### 4 推進体制

本市の農業は、農業者の高齢化や担い手不足に加え、原子力災害に起因する風評が未だに影響を及ぼしており、大変厳しい状況にあります。農業の振興には、生産性の

向上や農作業の効率化のほか、農産資源に新しい価値を付加していくことが必要です。

6次化の取り組みは、販売力を高める手段のひとつで、本市農産物に対する認知度の向上のみならず、地域産業を創出する幅広い取り組み機会の醸成につながります。

また、豊かな自然環境が育んだ確かな品質のくだものなどの農産物を、加工品や料理へ活用することが本市のイメージアップへつながります。相乗効果として、農産物を通じた本市のPRや観光客の増加などが図られ、地域経済の活性化が期待できます。

さらに、6次化を推進するためには、原材料を供給する農業者とその原材料を加工・販売する商工業者のマッチングを図り、対等な利益を得ながら、それぞれが持つ技術やノウハウを活かした、魅力ある6次化商品・サービスの開発が重要で、そのためには農業、工業（主に食品製造業）、商業（主に飲食店、食品小売業、観光業）及び学術機関（大学、短大、高校）との連携による推進ネットワークを十分に活用することと、事業効果の検証による次の施策へ反映する仕組みづくりが必要です。

## 第4章 6次化推進のための戦略

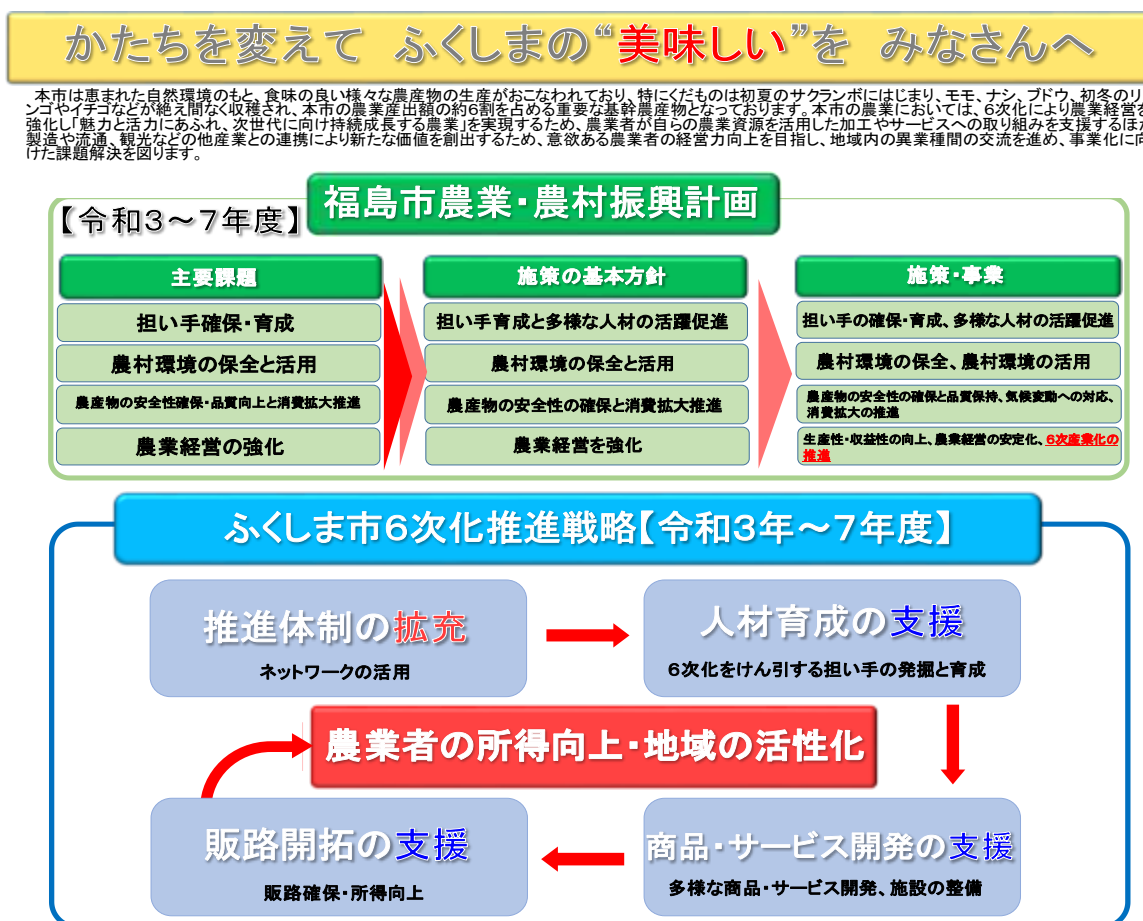
### 1 テーマ

「かたちを変えて ふくしまの“美味しい”を みなさんへ」

### 2 基本方針

本市は恵まれた自然環境のもと、食味の良い様々な農産物の生産がおこなわれており、特にくだものは初夏のサクランボにはじまり、モモ、ナシ、ブドウ、初冬のリンゴやイチゴなどが年間を通して収穫され、本市の農業産出額の約6割を占める重要な基幹農産物となっております。本市の農業においては、6次化により農業経営を強化し「魅力と活力にあふれ、次世代に向け持続成長する農業」を実現するため、農業者が自らの農業資源を活用した加工やサービスへの取り組みを支援するほか、製造や流通、観光などの他産業との連携により新たな価値を創出するため、意欲ある農業者の経営力向上を目指し、地域内の異業種間の交流を進め、事業化に向けた課題解決を図ります。

### 3 体系図



#### 4 重点事業

本戦略の基本方針の実現にあたっては、前戦略の重点事業だった推進体制の構築及び人材の発掘・育成について継続した推進を図るとともに、農業者等が意欲的に6次化に取り組むためには、商品・サービス開発や販路確保の支援が大変重要となってきます。

そこで、本戦略の計画期間（R3年度～R7年度）においては、次項「4 施策・事業」のうち、「施策（1）商品・サービス開発の支援」及び「施策（2）販路確保の支援」を重点的に推進すべき事業に設定し取り組むことで、6次化の着実な進展を農業所得アップや関連事業者の経営向上による地域経済の発展につなげます。

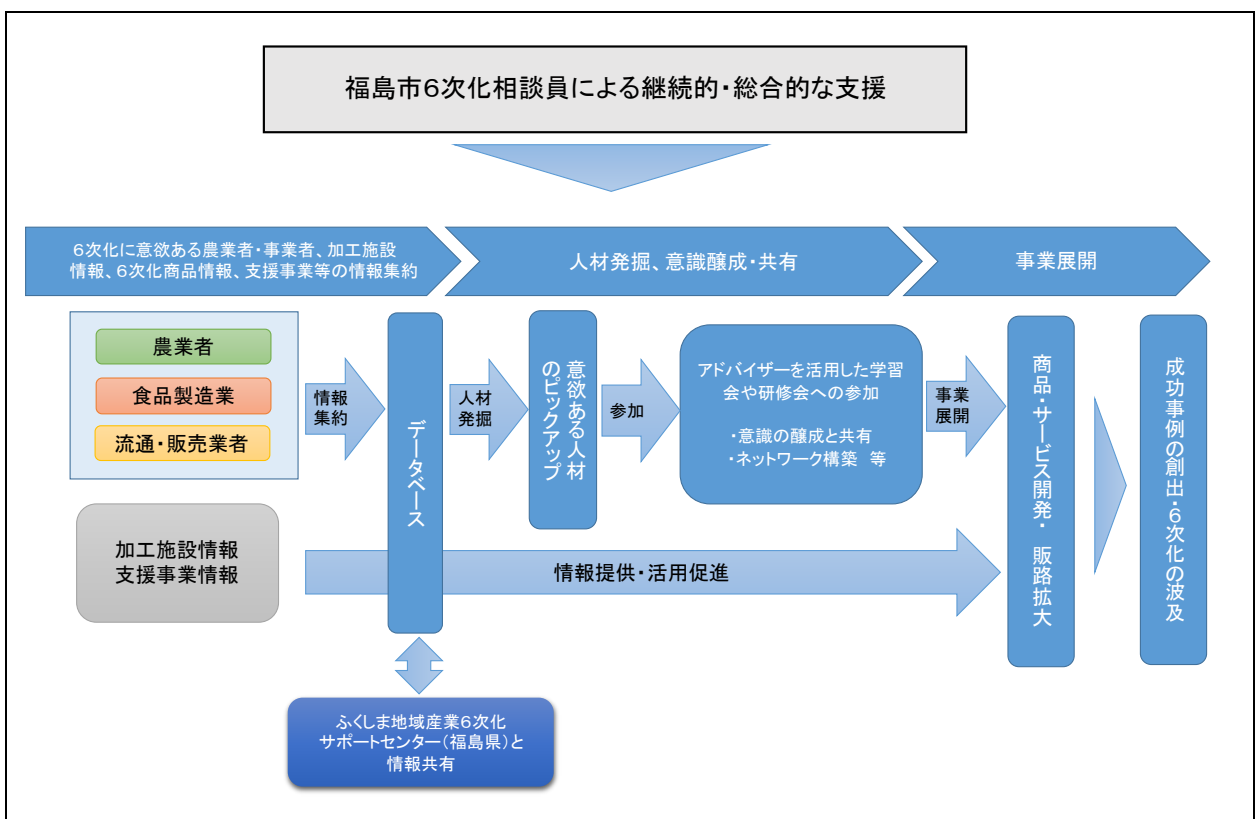
（再掲）

##### （1）商品・サービス開発の支援

- ・ 四季の里農産加工館産品開発室の活用による試作・開発機会の提供
- ・ テストマーケティングの場の提供

##### （2）販路確保の支援

- ・ 地域商談会・交流会の開催
- ・ ネットワークを活用した情報発信
- ・ 新規販売機会の創出



## 5 施策・事業

### (1) 商品・サービス開発の支援

本市の豊富な農産物に新たな価値を付加し、魅力的な商品・サービスを作り上げるためには、近年の健康志向などの消費者ニーズの研究や優れたアイデア、高度な加工技術を活用した安全安心な商品づくりが必要となります。

本市では、加工製造段階において、ソフト、ハードに係る支援事業の情報収集・発信を行うとともに、6次化商品開発の入り口として重要な6次化支援拠点の既存の試作・研究施設の整備・拡充を図り、商工観光分野と連携した新規加工業者の誘致等も推進します。

特に、本市が誇るくだものについては、生食だけでなく、6次化の取り組みにより年間を通して提供できる体制づくりを目指します。

また、幅広い消費者ニーズを把握する機会を提供するとともに、県や関係機関と連携しながら市販の既製品との価格差を埋める「付加価値」を分析・アドバイスするなど、消費者ニーズを捉えた商品・サービス開発を支援します。

#### 【主な事業】

##### ①加工施設情報の収集と発信

加工施設の貸し出しや製造受託が可能な農業者、加工業者に関する情報を収集し、6次化に取り組む農業者へ発信します。

##### ②食品加工産業創出の支援

付加価値の高いものづくりにより新たな事業の創出を図るため、市内の中小企業者等が自らおこなう本市農産物を活用した商品開発に対して、開発に要する経費の一部を補助します。

##### ③各種補助制度の活用促進

関係機関・団体等による商品開発（ソフト面）及び施設整備（ハード面）に対する補助制度の活用促進や、金融機関等からの資金調達を円滑にするため、各種制度の情報を収集し、6次化に取り組む農業者等へ発信します。

##### ④四季の里農産加工館産品開発室の活用による試作・開発機会の提供

農業者等による新商品や技術の開発を促進するため、四季の里農産加工館産品開発室の機能の拡充・充実を図るとともに利用者等を対象とした研修会を開催します。

##### ⑤テストマーケティングの場の提供

6次化に取り組む農業者等を募り、消費者ニーズを把握する機会を創出するため、（仮）道の駅ふくしま等を活用したテストマーケティングの場を提供します。商品のブラッシュアップによる売れる商品づくりの支援や、購入者等と直接対面による農業者等自身の商品PR力の向上を目指します。

##### ⑥市内の教育機関等との連携

市内の教育機関等と連携し、地元食材の活用促進や商品の共同開発などの取り

組みを支援します。

また、市内小・中学校等の福島型給食推進事業において、加工品も含めた本市産のくだものをはじめとする地元産食材の活用や伝統的な郷土食の提供により、子どもたちや保護者が地産地消や食文化に興味を持ち、理解を深め、生産者の努力を学ぶ機会を醸成し地元産食材の活用促進につなげます。

指標	目標	
	現状値（過去3年平均）	R7年度
市産農産物を使用した年間商品開発支援数	10件	15件

## （２）販路確保の支援

6次化を農業所得の向上につなげるためには、いかに販路を確保し拡大していくかが重要です。そこで、消費者や流通・小売業者などへ商品売り込む場の提供や安定的な販路を確保するための商談会等の開催、風評払拭や安全安心な商品情報を市内外へ積極的に商品情報を発信するための機会の提供、ふるさと納税返礼品への活用など、関係機関と連携した販路確保の支援を行ないます。

また、令和4年春にオープン予定の（仮）道の駅ふくしまをはじめとする6次化商品の販売機会の創出や新型コロナウイルス感染症等による生活様式の変化などをはじめ、販売方法の多様化に対応するため、ICTを活用した販路開拓などを支援します。

### 【主な事業】

#### ①スイーツ・プレミアム認証制度による支援

市内農作物等を活用した魅力あるスイーツを「ふくしまスイーツ・プレミアム商品」として認証し、商品の付加価値を高め、積極的に発信します。

#### ②地域商談会・交流会の開催

6次化に取り組む農業者や事業者等と市内を中心とした飲食店、ホテル・旅館、流通・販売業者等とのマッチングの機会を創出し、地元における販路拡大を支援します。

#### ③ネットワークを活用した情報発信

6次化商品を本市ホームページで発信する「わくろく発信プロジェクト」の活用及び周知を図りながら、新たに開発された商品情報の収集に努め、飲食店、ホテル・旅館、流通業者などへ情報提供し販売促進につなげます。

また、福島市観光コンベンション協会など関係団体との連携やふるさと納税の活用などにより、6次化商品の原材料である本市産農産物の認知度向上を図ります。

さらに、市内外での観光物産イベントや各種コンテスト・コンクール等の開催情報を発信し、6次化商品の販売やPR活動を支援します。

#### ④新規販売機会の創出

市が主催する事業をはじめ、自店舗を持つ事業者等は「アンテナショップ」として、自店舗を持たない農業者等は新規販路として、(仮)道の駅ふくしま等を活用し、販売機会を創出します。

#### ⑤包括連携協定企業等との連携

包括連携協定企業をはじめ、連携企業との関係性を活かし、商品開発やイベント等での販売機会を支援します。

指標	目標	
	現状値 (R元年度)	R7年度
地域商談会・交流会 年間参加者数 (農業者・事業者等)	32人	50人

### (3) 人材育成の支援

6次化に取り組む人材発掘やスキルアップを図るため、6次化の先進事例や課題等をはじめ、事業目的やスキルに応じた学習会の開催、新たな法制度などを学ぶ機会を設定します。

また、農業者と他業種事業者がネットワークを形成し、6次化に取り組む連携体制を創出するため、各産業や大学等の研究機関が交流し情報交換する交流会を開催します。

さらに、取り組み事例の情報発信などを行い、新たな担い手の発掘につなげます。

#### 【主な事業】

##### ①「ふくしま市6次化アドバイザー」の設置

農業者等へ加工技術などを専門的な視点から助言・指導を行う「ふくしま市6次化アドバイザー」を設置し、アドバイザーを活用した研修会等の開催により、6次化に関する知識の習得を支援します。

##### ②学習会等の開催

農業者、製造・加工業者、流通・販売業者、飲食店・旅館等を対象とした学習会等を開催し、農業者同士や他産業者とのネットワークを形成するとともに、6次化に対する意識の醸成と共有を図ります。

指標	目標	
	現状値 (過去3年平均)	R7年度
学習会等 年間参加者数 (農業者・事業者等)	64人	100人



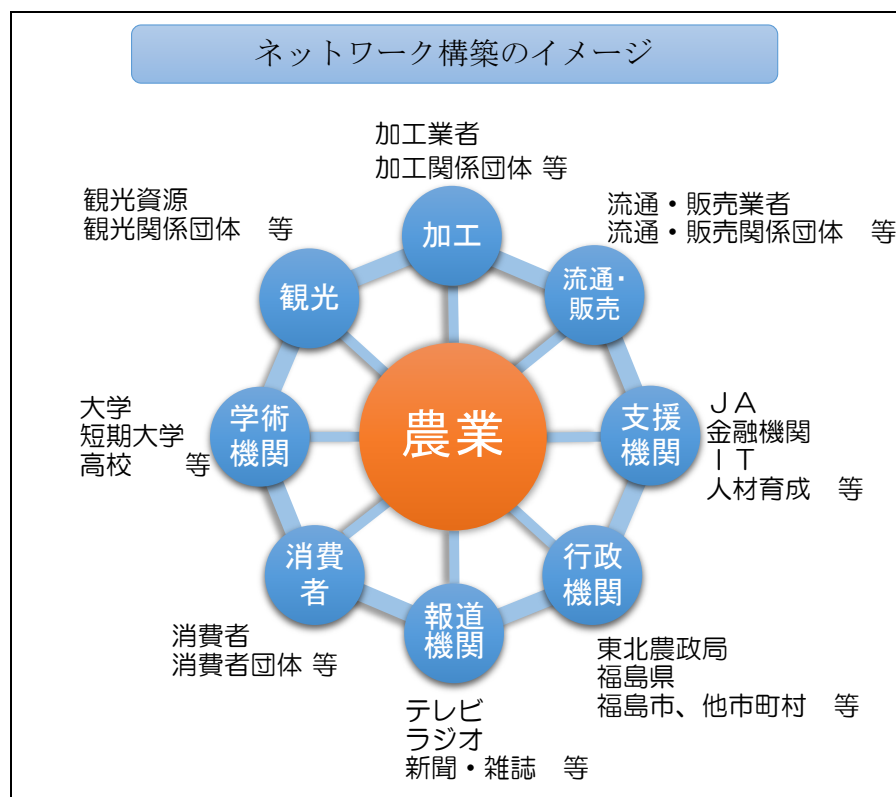
#### (4) 推進体制の拡充

本計画の実行性を高めるため、行政機関や各産業の関係組織・団体、学術機関等と連携したふくしま市6次産業化推進協議会が各種施策を推進します。

また、6次化の取り組みに意欲のある農業者、団体・企業を発掘し、交流・連携の機会を創出するとともに、各々が抱える課題の把握に努め、課題解決を図りながら商品化・販路拡大に至るまで継続的に支援する人材を配置します。

6次化推進へ向けては、地域内に加えて、国、県、他地域の情報を幅広く収集し、共有していく必要があります。

そのため、実態調査をもとに構築したデータを随時更新し、継続的な支援に活用します。



#### 【主な事業】

##### ①ふくしま市6次産業化推進協議会による施策の推進

農業者・農業団体、商工団体、金融機関、製造・加工業者、流通・販売業者、学識経験者、行政機関などで構成する「ふくしま市6次産業化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置し、本市農産資源を生かした魅力ある6次化商品の研究開発と開発機会の創出を推進します。

毎年度の施策と事業の成果については、年度の半期ごとに協議会に報告し、点検・評価するとともに、今後の施策に反映します。

## ②福島市6次化相談員による支援

6次化に意欲ある農業者、団体・企業を発掘するとともに、各々が抱える課題解決を図りながら商品化・販路拡大に至るまで継続的に支援します。

## ③「実態調査データ」の活用

農業者を対象に行った実態調査や6次化相談員の利用者などの6次化に関する情報提供の希望者への情報発信や、6次化に意欲ある人材や加工業者の情報を随時更新し、各施策・事業推進に活用していきます。

指標	目標	
	現状値（R2年度）	R7年度
「実態調査データ」及び6次化相談者における情報提供希望者（農業者・事業者等）登録件数	263件	400件

※R7年度末までの累計

## 6 主な事業の年次計画

施策名	No.	重点事業	事業名	年次計画				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
(1) 商品・サービス開発の支援	1		加工施設情報の収集と発信	加工施設の情報、補助制度の情報提供による商品開発支援				
	2		食品加工産業創出の支援	中小企業等による商品開発支援				
	3		各種補助制度活用促進	各種補助制度の情報収集・発信				
	4	◎	四季の里農産加工館 産品開発室の活用による試作・開発機会の提供	加工機器類の更新、拡充、研修会等の開催				
	5	◎	テストマーケティングの場の提供	消費者ニーズ把握のためのテストマーケティングの場の提供				
	6		市内の教育機関等との連携	・地元食材の活用促進、商品の共同開発 ・学校給食での農産物活用、郷土食の提供				
(2) 販路確保の支援	1		スイーツ・プレミアム認証制度による支援	「ふくしまスイーツ・プレミアム商品」の認証				
	2	◎	地域商談会・交流会の開催	飲食店、ホテル・旅館、流通・販売業者等との商談会・マッチング機会の創出				
	3	◎	ネットワークを活用した情報発信	市内外への広報及び飲食店、ホテル・旅館、流通業者等へ商品関連情報の発信、各種情報の発信				
	4	◎	新規販売機会の創出	(仮) 道の駅ふくしま等での商品の販売機会の創出				
	5		包括連携協定企業等との連携	連携企業との商品開発やイベント等での販売機会の支援				
(3) 人材育成の支援	1		ふくしま市6次化アドバイザーの設置	専門的な知識等から助言、指導を行うアドバイザーの設置・活用				
	2		学習会等の開催	・6次化に関する学習会等の開催 ・農業者同士や他産業者とのネットワーク形成・6次化意識の醸成と共有				
(4) 推進体制の拡充	1		ふくしま市6次産業化推進協議会による施策の推進	戦略の点検・施策検討				次期戦略策定
	2		福島市6次化相談員による支援	支援活動				
	3		「実態調査データ」の活用	随時更新・活用	再調査	随時更新・活用		

## 別表1

◇福島市内農産物直売所（令和3年3月現在）

No.	直売所名	住所
1	JAふくしま未来農産物直売所「こころ矢野目店」	北矢野目字原田東1-1
2	JAふくしま未来農産物直売所「こころ吾妻店」	在庭坂字薬師田1-1
3	JAふくしま未来農産物直売所「Yショップこころ西店」	さくら三丁目1-6
4	JAふくしま未来農産物直売所「こころ黒岩店」	黒岩字北井14-1
5	JAふくしま未来農産物直売所「こころ清水店」	南沢又字前田7-3
6	四季の里 農村いちば	荒井字上鷺西1-1
7	みさと産直ひろば ディスカバリー	松川町美郷3丁目2-5
8	茂庭農産物直売所	飯坂町茂庭字清水川原21-2
9	あぐりハウス飯野	飯野町字後川3-1
10	産直カフェ	大森字日ノ下4-1
11	お百しょう屋	本町2-7

## 別表2



・資料：観光交流推進室、福島市観光農園協会より

### 別表3

◇六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定事業者（令和3年3月現在）

No.	認定年月	事業者	事業名
1	平成23年5月	田村 政雄	エコ米を利用した加工販売事業
2	平成25年5月	株式会社オブリガード	完熟果物及びもち米を利用した加工品の開発・製造・販売事業
3	平成25年10月	株式会社フルーツのいとう園	高級種を使用した枝付干しぶどうの開発と販路開拓

資料：農林水産省ホームページより

# ふくしま市6次産業化推進戦略

令和3年 6月

編集・発行 福島市農政部農業振興課  
〒960-8601 福島市五老内町3番1号  
電話（直通）024-529-7663